

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400404		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷・ツツジユニット		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706-4		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町村受理日	平成23年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katigokounyuu.jp/katigosi/information/public.do?JCD=3271400404&SCD=320&PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成23年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地から離れている立地ではあるが、自分達から地域へ出かけることによって地域交流をすすめてきた。開所から6年半が経過し、地域の皆様にも認められ、今年(平成23年)4月には新しいグループホームを隣接地に開設した。新しいグループホームを開設するにあたり、これまでの職員体制の見直しも行い、ユニットごとの職員の固定化により、よりきめの細かいケアに結びつける取り組みも始めている。ご家族との関係づくりもすすめており、生活のご様子について定期的な連絡や行事への参加を呼びかけるなど、信頼関係の構築に努めている。
また、外部研修に参加するだけでなく、園内研修も定期的開催し、認知症の勉強会や救急法などを学ぶ機会を設け、職員のケアの技術向上に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年11月からユニット毎に職員を固定する体制を取り、早い段階から利用者が落ち着いて生活できるように支援している。職員の育成に力を入れ、内部研修や地域の同業者との交流を積極的に行っている。職員はいろいろな場面に对应していく力を身に付けてきて、認知症を理解しながら穏やかで優しい声かけや対応を行っている。行政や地域の中でもこれまでの実績が理解されてきており、地域の中での役割に期待する声が聞かれる。利用者はユニット間を自由に行き来し、自分のペースで生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議、ユニット会議にて、理念の確認(読み合わせ)をし、実践している。	地域密着型サービスとしての明快な理念を掲げ、会議などで読みあわせを行い職員全員で共有しながらケア内容に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、加茂の郷の行事に地域の方に参加していただくなど、交流を図っている。(笹まき作り・納涼祭など)	地域行事に参加したり、事業所の納涼祭、笹まき作りなどに地域の人に参加してもらい交流を図っている。広報誌の地域への回覧やボランティアとの交流は継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な地域への発信はないが、相談に訪れた方への対応の中では、これまで培ってきた内容を伝達し、援助をすすめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回開催し、いただいた意見等は常に検討し、ケアの中に取り入れている。	今年度は、委員をグループ分けし2ヶ月に1回開催している。活動報告や情報交換を行い、災害対策や地域との関わりなどへの出席者からの助言を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連携を図り、良好な関係作りに取り組んでいる。	保険制度のわからないことを聞いたり、相談ごとなど行っている。これまでの取り組みが理解されるようになり、互いに協力し合える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしないようチャイムセンサーを使用し、出入りの確認ができるようにしている(夜間は施錠)。身体拘束は、1名の方、ベッドの四本柵を行っている。家族の同意を得、都度検討し、継続・中止を決めている。	見守りやチャイムセンサーで利用者の動向を知り、玄関やユニット間は施錠せず拘束をしない生活を支援している。止むを得ず拘束をする場合は経過を話し合い、検討しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等への参加により、虐待について学ぶ機会を設けることを心がけている。また、常に注意し、職員間や管理職同士の情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者対応で行っている。職員の研修(学習)の機会については、現在はまだ設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・主任対応で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱(利用は今のところ無し)や苦情相談窓口を設け、対応している。職員での話し合いの場も設けている。また、面会時、家族の要望等を伺うようにしている。	家族の訪問時に意見を聞いたり、行事にあわせて茶話会を行い交流をしている。運営推進会議ではユニット毎に参加を呼びかけ意見を聞いている。家族の思いを受け止め対応している。	家族からは感謝の声が多いが、継続して意見を引き出す工夫をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け、運営面に反映させている。	ユニット会議や日常的に意見を聞き運営に反映させている。職員は意見が言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、役職員の業務遂行状況を把握し、働きがいのある職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や園内外の研修への参加を積極的にすすめ、その評価も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲南地域のGH部会での研修会などを通して、職員同士が交流を深める機会を設けるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴などの情報収集し、利用者の方の話を傾聴し、信頼関係の構築に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の契約等の説明の際十分時間をとって面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、当施設での利用が最善か否かを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる能力を大切にし、援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、日々の様子を伝え、ご本人とゆっくり過ごして頂ける様配慮している。また、受診や外出などもご家族の協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべての関係性の継続は難しいが、行きつけの美容院への外出など、入居後も継続できることは可能な限り行っているし、家族にも提案している。	希望する人には行きつけの美容院へ行ったり、家族の協力を得て自宅に帰ったりしている。ボランティアの指導で絵手紙を書いているが、完成すると知人に送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、トラブルを避け、できるだけ良い関係性が築けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にあたっては、次の生活の場の確保や関係機関との連絡調整を図っている。また、心配のあるご家族にはコンタクトをとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のやりたいことに耳を傾け、希望に添えるよう努めている。時には、ご家族からの意見をいただき、今までの生活を把握し、過ごし方を考えている。	言葉や表情、日々のコミュニケーションから思いを把握している。利用者が思いを表しやすいように選択できる声かけを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴など、家族から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて過ごしていただいている。また、一人ひとりが出来ることを職員は把握し、声かけをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で、モニタリング・カンファレンスを行い、利用者の状況を話し合い、より良いケアに努めている。また、ご家族にも要望を伺い、ケアに活かしている。	家族の希望や職員間での情報をもとにプランを作成し、定期的に見直しをしている。家族からのケアに対する要望にはすぐに対応している。	プラン作成時に家族も参加できるような体制作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態・行動などの様子を記録に残し、職員間で情報共有している。ケアプランは、3ヶ月ごとの見直しのほか、状態変化に応じて行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療・自治会・地域ボランティアなどの地域資源を活用し、利用者の暮らしを支援している。特に、自治会との関係は、今後ますます強化していきたいと考えている。重要な地域資源は人であることを職員間で共有して支援にあたりたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者のかかりつけ医については、入居してからも継続している。看護師が中心となり、往診や相談などを日常的に行える関係づくりに努めている。	入居前のかかりつけ医を継続し受診や往診の支援をしている。夜間の緊急時は救急車対応になるが、状況把握を的確に行い早めの対応を行って利用はほとんどない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場での医療的な部分では、介護職から看護職へ情報提供や相談がなされている。必要であれば、看護職から適切な医療へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院との連絡を密におこない、適宜カンファレンスなどの開催も働きかけている。地域病院とはよい関係作りができていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、管理者会で議論を重ね、あくまでも個々のケースでとらえていく方針とした。入居時に話をするようにしているが、個々のケースについて早い段階での話し合いは、現時点では行っていない。	管理者会で何度か話し合いを行い、利用者、家族の希望や状況に合わせ、個別に対応したいと考えている。ターミナルに対応してもらえる医師の確保が難しい。	職員間でも重度化、終末期の対応について話し合いを重ね、方針を共有されることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習や緊急時のマニュアルを作成し、勉強会などを実施している。また、AEDも設置し、緊急時の対応力強化に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的実施しているが、地域の方との協力体制は不十分である。避難訓練などへの参加を今後もすすめていく。	消防署の指導を受け定期的に訓練を行い、独自な訓練も計画している。地域との協力体制については今後の検討課題になっている。	備蓄品の検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉遣いや排泄時の声かけなど、声の大きさ・トーンなどに配慮している。気になるときは職員同士話し合い、互いに意識を高め、改善につながるよう努めている。	居室に入る時には声をかけたり、排泄の声かけに配慮するなど、利用者を尊重した言葉遣いや対応を心がけ、気になるときは話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方が少ないが、自己決定できるよう、働きかけは行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や生活リズムを大切に、その人らしい生活をしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り、整髪には特に注意している。自分で出来る方には声かけし、出来ないところを介助している。衣類選びも一緒に行い、利用者の意見を取り入れながら決めるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理手伝いや片付けなど、職員と一緒にできている。また、職員も一緒に同じものを食べ、楽しく食事が出来るよう努めている。季節ごとの行事に合わせたメニューも取り入れている。	職員も一緒に食卓を囲み、支援をしながら和やかな雰囲気作りをしている。片付けや食器拭きなど利用者の力を活かせる場面があり、献立によっては利用者も調理に加わり楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、昼夜とも気をつけている。食事量・食事形態については、一人ひとりに合わせたものとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の利用者に応じて、声かけ、見守り、介助等を行っている。また、曜日を決めて、義歯洗浄剤等も使用し、清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェックシートを使いながら、適切な支援となるよう努めている。夜間も、声かけにてトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表やサインを見て支援し、トイレでの排泄がスムーズにできるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳製品の摂取や運動、便秘薬の使用などにより、個々に排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思やタイミングにあわせて入浴を行っている。時間帯については、決められた時間帯である。	希望や体調を考慮しながら支援している。入浴時間は開設当初から決めているが、遅い時間に「まだ入浴していない」と言われた時には、状況判断によりシャワー浴対応をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡をすすめ、休息していただけるよう心がけている。夜間帯も安心していただけるよう個別対応に努めている(不眠のときの話し相手、飲み物をすすめるなど)。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握はできている。個々のカルテに内服薬の一覧があり、服用している薬について理解しやすいよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、運動やレク活動の支援に努めている。その方のできることを見つけ、少しずつ役割ができつつあると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など要望にこたえられるよう努めている。また、ドライブの行き先なども、利用者の希望に沿うようにしているし、これからも続けていきたい。	散歩やゲートボールなど外気に触れる時間を作り、急遽ひまわり畑に出かけることもある。買い物を希望される場合はできるだけすぐに対応している。家族の協力で外出する人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望にもよるが、自分で管理出来る方には自分で財布を管理し、買い物などの際も、自分で支払ってもらう。管理できない方は、事務所で預かり、必要時清算している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたときは使用していただいている(番号を押したり、代弁したりの支援あり)。絵手紙は、作成後、家族に出せるよう支援している。返事も頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁面装飾や花を飾っている。また、各場所の清潔に努めている。	行事の写真や絵手紙など利用者の作品を飾り、利用者がソファや畳で居心地よく過ごせるよう配慮している。テレビ音にも配慮し、職員は利用者に穏やかに話しかけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーの活用での落ち着いた空間作りをしている。利用者同士も互いの居室を自由に行き来し、楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた家具や大切なもの(アルバム・本など)をもってきていただき、落ち着いて過ごしていただけるようにしている。居室で過ごすことのない方はほとんどものがなく寂しい感じ。	写真や思い出の品、家具、仏壇など、利用者や家族の思いで自由に持ち込んでもらっている。利用者の機能に合わせ、補助具を使用して過ごしやすい環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかるよう表札をかけている。絵でわかるようトイレの表示するなど工夫している。また、一人ひとりの身体状態に合わせて、自立できるよう、補助具の使用をしている。		